



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587036903	科目番号	05870369
授業科目名	●教育と社会Ⅱ(教育相談)		
編集担当教員	田山 淳		
授業担当教員名(科目責任者)	田山 淳		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	田山 淳, 西郷 達雄, 小川 さやか, ピーターバーニック		
科目分類	全学モジュールII科目、教職に関する科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生（クラス等）	2年生		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	本授業では、教育相談の理論や歴史を中心とした基礎的知識を学習する。基礎的知識に加え、教育現場等で必要な相談に関する技法をいくつか学習する。		
授業到達目標	個々の児童・生徒の悩みに対応できる知識とスキルを身につける。		
授業方法（学習指導法）	講義形式（一部実習形式）		
授業内容	1. 教育相談の歴史と意義 2. 学校における教育相談体制と相談の進め方 3. 児童・生徒の発達に応じた教育相談 4. 児童・生徒が抱える心の問題の種類 5. 心の問題を明らかにする方法（1） 6. 心の問題を明らかにする方法（2） 7. 来談者中心カウンセリングについて（1） 8. 来談者中心カウンセリングについて（2） 9. 行動療法・行動カウンセリングについて（1） 10. 行動療法・行動カウンセリングについて（2） 11. グループエンカウンターについて 12. 心理教育について 13. 保護者への教育相談 14. 各種関係機関との連携 15. 総括 16. テスト		
キーワード	教育相談、来談者中心カウンセリング、行動療法・行動カウンセリング		
	<教科書> ・授業内で配布するプリントを利用する。 <参考書> ・よくわかる教育相談－やわらかアカデミズム・わかるシリーズ－：春日井 敏之（編集）、伊		

教科書・教材・参考書	藤 美奈子 (編集)、ミネルヴァ書房、2011 ・図で理解する生徒指導・教育相談：佐々木 雄二 (著)・笠井仁 (著)、福村出版、2010 ・教育相談・学校精神保健の基礎知識：大芦 治 (著)、ナカニシヤ出版、2008 ・相談活動に生かせる15の心理技法：「月刊学校教育相談」編集部 (編集)、ほんの森出版、2004 ・教育相談－教師教育テキストシリーズ－：広木 克行 (編集)、学文社、2008 ・教育相談の理論と実際－よりよい教育実践をめざして：河村 茂雄、図書文化社、2012 ・教育相談入門－こころの科学叢書－：高野久美子、日本評論社、2012
成績評価の方法・基準等	1) 試験の結果30％ 2) レポート・提出物40％ 3) 出席および授業態度30％
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587036904	科目番号	05870369
授業科目名	●教育と社会II(教育相談)		
編集担当教員	田山 淳		
授業担当教員名(科目責任者)	田山 淳		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	田山 淳, 西郷 達雄, 小川 さやか, ピーターバーニック		
科目分類	全学モジュールII科目、教職に関する科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-33		
対象学生（クラス等）	2年生		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	本授業では、教育相談の理論や歴史を中心とした基礎的知識を学習する。基礎的知識に加え、教育現場等で必要な相談に関する技法をいくつか学習する。		
授業到達目標	個々の児童・生徒の悩みに対応できる知識とスキルを身につける。		
授業方法（学習指導法）	講義形式（一部実習形式）		
授業内容	1. 教育相談の歴史と意義 2. 学校における教育相談体制と相談の進め方 3. 児童・生徒の発達に応じた教育相談 4. 児童・生徒が抱える心の問題の種類 5. 心の問題を明らかにする方法（1） 6. 心の問題を明らかにする方法（2） 7. 来談者中心カウンセリングについて（1） 8. 来談者中心カウンセリングについて（2） 9. 行動療法・行動カウンセリングについて（1） 10. 行動療法・行動カウンセリングについて（2） 11. グループエンカウンターについて 12. 心理教育について 13. 保護者への教育相談 14. 各種関係機関との連携 15. 総括 16. テスト		
キーワード	教育相談、来談者中心カウンセリング、行動療法・行動カウンセリング		
	<教科書> ・授業内で配布するプリントを利用する。 <参考書> ・よくわかる教育相談－やわらかアカデミズム・わかるシリーズ－：春日井 敏之（編集）、伊		

教科書・教材・参考書	藤 美奈子 (編集)、ミネルヴァ書房、2011 ・図で理解する生徒指導・教育相談：佐々木 雄二 (著)・笠井仁 (著)、福村出版、2010 ・教育相談・学校精神保健の基礎知識：大芦 治 (著)、ナカニシヤ出版、2008 ・相談活動に生かせる15の心理技法：「月刊学校教育相談」編集部 (編集)、ほんの森出版、2004 ・教育相談－教師教育テキストシリーズ－：広木 克行 (編集)、学文社、2008 ・教育相談の理論と実際－よりよい教育実践をめざして：河村 茂雄、図書文化社、2012 ・教育相談入門－こころの科学叢書－：高野久美子、日本評論社、2012
成績評価の方法・基準等	1) 試験の結果30％ 2) レポート・提出物40％ 3) 出席および授業態度30％
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587037302	科目番号	05870373
授業科目名	●教育と社会II(文学と社会)		
編集担当教員	前田 桂子		
授業担当教員名(科目責任者)	前田 桂子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	前田 桂子		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-41		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	kmaeda@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部棟624研究室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	現代日本語の音韻、文法、語彙、方言などに関する知識を修得し、身近な日本語を探究する態度を育てる。		
授業到達目標	身近な日本語の成り立ちについて理解を深め、その理由を自ら探究し、自分の言葉で説明する能力を身に付ける。		
授業方法（学習指導法）	講義		
授業内容	回	内容	
	1	世界の中の日本語	
	2	文字について① 漢字	
	3	文字について② 仮名	
	4	語彙について① 和語、漢語、外来語	
	5	語彙について② 類義語、複合語	
	6	標準語、俗語、若者語	
	7	らしさの表現	
	8	待遇表現の意義	
	9	変化する文法①	
	10	変化する文法②	
	11	国語史① 音韻の歴史	
	12	国語史② 文体の歴史	
	13	方言①	

	14	方言②
	15	単語の意味変化
	16	総括
キーワード	日本語 ことば 変化 歴史 地域	
教科書・教材・参考書		
成績評価の方法・基準等	授業中に課すレポートおよび期末試験	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月 4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587037702	科目番号	05870377
授業科目名	●教育と社会II(身のまわりの科学)		
編集担当教員	飯島 美夏		
授業担当教員名(科目責任者)	木村 彰孝		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	木村 彰孝		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-33		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	m-iijima@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部353研究室		
担当教員TEL	2371		
担当教員オフィスアワー	木曜3限 (事前にメールで連絡後、来室すること)		
授業の概要及び位置づけ	現在の私たちの生活にはプラスチック、繊維など高分子がとても広く使われている。また、人間をはじめとする生物も生体高分子から形成されている。本講義 ではこれら高分子の種類、特徴、性質等について日常生活と関連づけながら解説する。		
授業到達目標	高分子の性質、高分子の構造、高分子の合成法の基礎的事項について説明できるようにする。また、ゴム、繊維、プラスチック、生体高分子、機能性高分子な ど日常生活に身近な高分子物質の種類、しくみなどについて説明できるようにする。化学に関する基礎的な計算ができるようにする。		
授業方法（学習指導法）	教科書、必要に応じて配布する資料を用いた解説、またプロジェクターによるプレゼンテーションを行なう。また、授業中に適宜課題を課す。		
授業内容	日常生活の中で出会う物質、特に高分子物質について講義する。高分子化学の基礎を理解するため、高分子の性質、構造、合成に関する知識を増すとともに、材料としての高分子についての理解を高める。さらに、環境と高分子の関係についての知識も高める。授業中に適宜課題を課すことにより、理解力などを高める よう図る。		
	回	内容	
	1	オリエンテーションとイントロダクション	
	2	身のまわりの高分子	
	3	高分子の性質 (1)	
	4	高分子の性質 (2)	
	5	高分子の特殊な性質	
	6	高分子の構成	
授業内容	7	高分子の構造	
	8	高分子の合成 (1)	

	9	高分子の合成 (2)
	10	材料としての高分子 (1)
	11	材料としての高分子 (2)
	12	機能する高分子
	13	環境と高分子 (1)
	14	環境と高分子 (2)
	15	高分子に関するまとめ
	16	試験
キーワード	高分子、化学、生活	
教科書・教材・参考書	教科書：「わかる化学シリーズ7 高分子化学」 齋藤勝裕・渥美みはる著(東京化学同人) 参考書：「化学ってそういうこと！ 夢が広がる分子の世界」 日本化学会編（化学同人）	
成績評価の方法・基準等	授業到達目標に掲げた内容について、授業中に適宜課題を課し、まとめとして定期考査を行って評価する。評価割合は、○定期考査 7 0 %，授業中の課題の内容 3 0 %とし、総合点で評価する。合格基準は、定期考査 6 0 %以上で、かつ、総合点で 6 0 %以上とする。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	高校の化学教科書の有機化学、高分子に関する項を読んでおくことが望ましい。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587038102	科目番号	05870381
授業科目名	●教育と社会II(芸術)		
編集担当教員	福井 昭史		
授業担当教員名(科目責任者)	福井 昭史		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	福井 昭史		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-42		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	a-fukui@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部音楽棟3階		
担当教員TEL	095-819-2342		
担当教員オフィスアワー	授業等で不在が多く時間の指定ができないので、在室時ならいつでも		
授業の概要及び位置づけ	音楽を取り上げ、教育における芸術の役割について理解することを目標とする。音楽が教育においてどのような役割を果たしているのか、人間と音楽との関わり どのについて考察することを通して理解を深める。また、学校教育における音楽教育や音楽活動の意味を考察する。		
授業到達目標	文化としての音楽、音楽と人間の関係、音楽教育について理解する。		
授業方法（学習指導法）	講義によって獲得した知識などをもとに、与えられた課題を考察する。		
授業内容	回	内容	
	1	"音楽の感受と鑑賞（1）曲想の感受" 音楽の表す情景を想像する活動	
	2	"音楽の感受と鑑賞（2）要素の感受" トルコ行進曲のリズムとウィーン古典派の音楽	
	3	"音楽の感受と鑑賞（3）様式の感受・時代的特徴" バロック、古典派、ロマン派の協奏曲の形式	
	4	"音楽の感受と鑑賞（4）様式の感受・地域的特徴" "リズムの特徴、スペイン・ヘミオラのリズム"	
	5	〔課題に対する討論〕人は音楽をどのように感じ取り理解するのか。音楽教育は何をするべきなのか。	
	6	"人間と音楽（1）生活と音楽" 音楽の起源に関する学説を裏付ける民俗音楽	
	7	"人間と音楽（2）音楽の変化・発展" 生活の変化と芸能の衰退・発展	
	8	"人間と音楽（3）心と音楽" 音楽療法と療法的音楽教育	

	9	〔課題に対する討論〕人間にとって音楽とは何か
	10	"文化の理解（１）民謡の伝播" 海上交通と歌の伝播
	11	"文化の理解（２）音楽の拡散・伝播" 大陸伝来の楽器と音楽
	12	"文化の理解（３）琵琶の歴史と様式の変化" 琵琶楽の歴史と各々の表現
	13	"文化の理解（４）三味線の伝来" 三味線の伝来と本土での改良、諸流派の出現
	14	"文化の理解（５）箏の歴史と音楽の近代化" 箏の歴史と西洋音楽の影響
	15	〔課題に対する討論〕音楽からどのような文化の在り方が理解できるか。
	16	学習のまとめ
キーワード	人間と芸術（音楽）、音楽教育	
教科書・教材・参考書	参考書：「よくわかる日本音楽基礎講座」音楽之友社	
成績評価の方法・基準等	課題に対する討論とその資料（30％）、日常の活動状況（30％）筆記試験（40％）	
受講要件（履修条件）	芸術や文化、教育に対する関心があること	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	人間にとって芸術・音楽とは何なのかという問題意識を持ち、関連する資料を調査しておくこと	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587038502	科目番号	05870385
授業科目名	●教育と社会 II (環境と社会)		
編集担当教員	星野 由雅		
授業担当教員名(科目責任者)	星野 由雅		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	星野 由雅		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	hoshino@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部4階 4 1 5 研究室		
担当教員TEL	095-819-2332		
担当教員オフィスアワー	木曜日以外の昼休み		
授業の概要及び位置づけ	環境と社会がどのように関わっているかを環境基本法などで大まかに捉え、具体例として環境要因がどのように環境や人間に影響を与え、社会が、それをどのように扱って行けば良いのかを各種の規制法等を通して考える。また、ドイツの環境と社会との関わりを多角的に調べ、日本の環境と社会との関わりのあるべき姿を探る。		
授業到達目標	環境と社会と関わりについて、法的な知識と理解度を高めると共に、現代社会の中で環境要因が具体的にどのように環境や人間に影響を与え、社会がそれをどのように扱って行けば良いのかを多角的に調べ、環境と社会との関わりのあるべき姿を述べるができるようになる。		
授業方法（学習指導法）	受講者自らが課題を設定し、その課題を解決するために、教科書，配布資料，参考書等で学習するとともに、課題と課題解決のために学習した内容をレポートとし、発表する。また、学習した内容に応じてプレゼンテーションを学生自らが行う。授業中に学習内容の定着度を図る目的で小テストを数回課す。授業中に適宜 調べ学習も行なう。		
	回	内容	
	1	オリエンテーションとイントロダクション。受講者自らが興味を持つ、環境問題を挙げる課題（事項と内容）を指示する。【課題：個人レポート】	
	2	班に分かれて、各受講者ごとに挙げた環境問題を選定した理由を班員に説明する。次に、挙げた環境問題の内容を理解するために必要な学習事項（法規や関連事項）を挙げる課題を指示する。受講者から質問があれば、学習事項の例とその内容について説明する。【課題：個人レポート】	
	3	班に分かれて、各受講者ごとに学習事項（法規や関連事項）を発表し、班員全員が必須と考える学習事項を選定する。班ごとに必須となった学習事項を理由と共に発表する。クラス全体での必須学習事項を受講者間の議論により選定する。必須学習事項について各受講者が学習してくる。（特別講師：横尾美智代）【課題：個人レポート】	
		班ごとに必須学習事項について学習してきた内容を班内で各受講者が発表を行う。班内	

授業内容	4	でテーマを1つに選定し、その内容についてクラス全体にわかるように説明するための準備を行う。
	5	各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（1） 教員による補足説明。
	6	各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（2） 教員による補足説明。
	7	前回と前々回の授業で取り上げた必須学習事項に関する小テスト 各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（3） 教員による補足説明。
	8	各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（4） 教員による補足説明。
	9	各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（5） 教員による補足説明。
	10	前回と前々回の授業で取り上げた必須学習事項に関する小テスト 各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（6） 教員による補足説明。
	11	各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（7） 教員による補足説明。
	12	前回と前々回の授業で取り上げた必須学習事項に関する小テスト 小テストの解説。 各受講生が課題とした法規、環境と社会との関わりを示した具体例の説明レポートの作成を指示。【課題：個人レポート】
	13	班に分かれて、各受講生が作成した説明レポートを班内で発表。その後、班の代表者がクラス全体に対して説明レポートを基に発表。
	14	班に分かれて、各受講生が作成した説明レポートを班内で発表。その後、班の代表者がクラス全体に対して説明レポートを基に発表。
	15	班に分かれて、各受講生が作成した説明レポートを班内で発表。その後、班の代表者がクラス全体に対して説明レポートを基に発表。
	16	定期試験
キーワード	環境基本法、環境基準、化学物質のリスク、ドイツの環境事情、環境教育	
教科書・教材・参考書	参考書1：谷村賢治・齋藤 寛編著「環境知を育む」税務経理協会 参考書2：及川 紀久雄・北野 大共著「人間・環境・安全ーくらしの安全科学」共立出版	
成績評価の方法・基準等	授業中の小テスト、課題レポート、発表、定期考査を行って評価する。評価割合は、定期考査50％、授業中の小テスト20％、課題レポート20％、発表10％とし、総合点で評価する。合格基準は、総合点で60％以上とする。	
受講要件（履修条件）	定員を80名までとします。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	他の班のプレゼンテーションにおいても、積極的に質問、意見を述べること。	

